



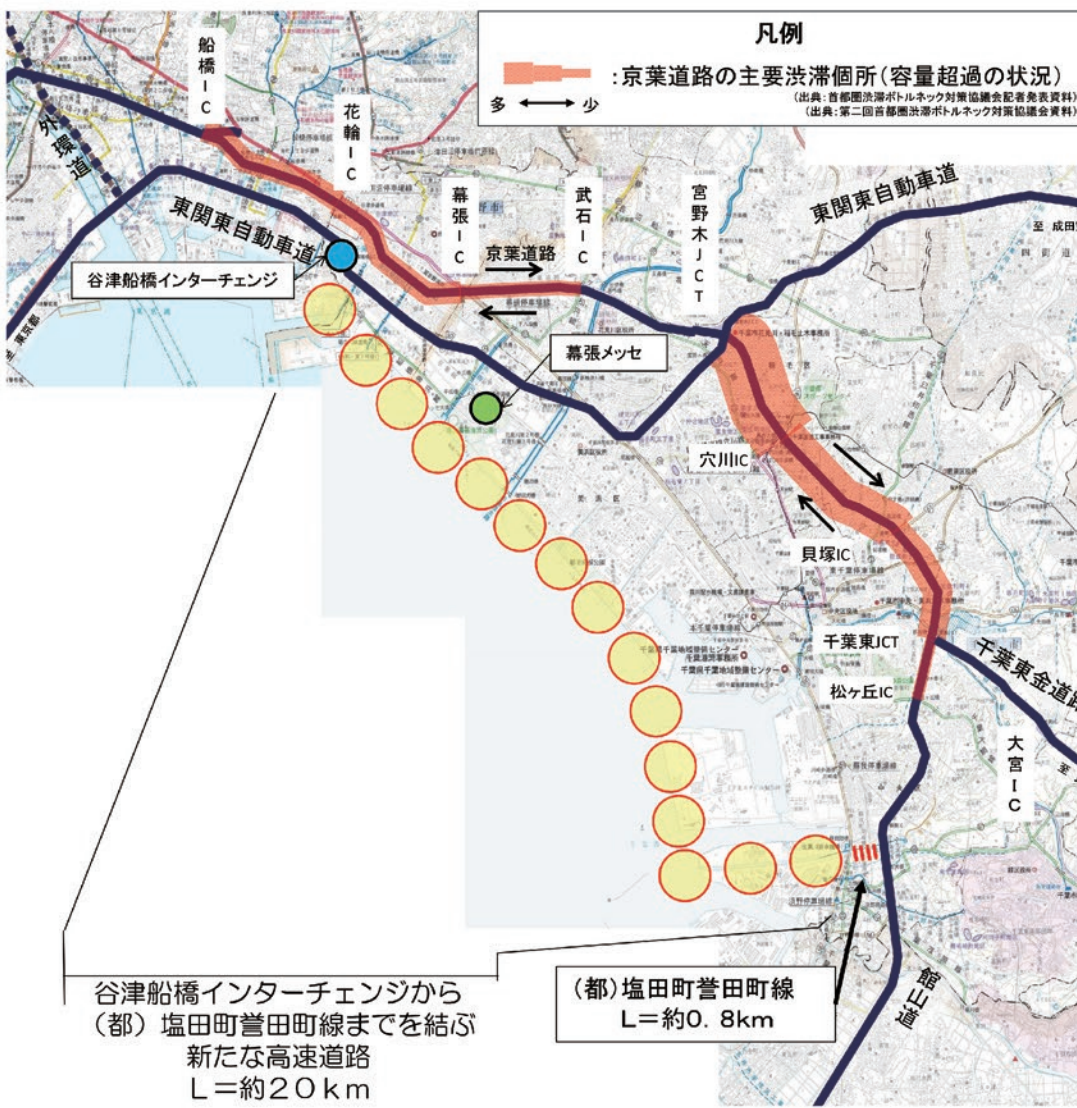
関コメ

京葉道路の渋滞は周辺道路の渋滞にも影響を及ぼしており、ポイントで挙げたように、渋滞の根本的な解決には必要なルートであると考えます。また、図面のルート上には、確保されている用地がありますので、これを早期に活用していくべきです。

本年6月に発表された県道路整備プログラムでは、圏央道の大栄~横芝間について、2024年度までに供用開始を目標に掲げており、これにより圏央道の県内区間が一段落しますが、その先の需要を見据えた交通網の整備を、早急に始動すべきと考えております。

今回取り上げた道路と鉄道のテーマは、いずれもアクセスの利便性向上に関するものであり、これは特に、半島である千葉県にとって、発展のための重要な鍵となります。

谷津船橋インターチェンジから(都)塩田町誉田町線までを結ぶ新たな高速道路



谷津船橋インターチェンジから(都)塩田町誉田町線までを結ぶ新たな高速道路 L=約20km (都)塩田町誉田町線 L=約0.8km

政策条例 「地産地消」から真の「千産千消」へ ~PT副座長の視点~

「地産地消」という言葉は、一般的には、その地域で作られた農作物・水産物をその地域で消費することを指しています。

しかし、自民党会派の政策条例制定プロジェクトチーム(単に「PT」とします)では、「ちば愛を育もう(WE LOVE ちば)」という理念のもとで、「千葉県内で生産される農林水産物は基より、地域資源を活用した製品や役務の提供等、県民及び関係者が愛着をもって消費、利用することで需要の増進をはかり、地域が培ってきた生活文化への県民の理解を深めるとともに、地域産業の振興を図っていくこと」がより重要であると考え、「千葉県内の全ての生産や産業等、県内で消費、利用」を念頭に、より対象を広く捉える「千産千消」を推進するべく、千葉県発展の原動力に繋がる政策条例の制定を目指しています。



関コメ

本県は、全国の縮図と言われるように多様な特色を持ち、特に都市部では、他県から移り住んできた人が多い県であります。プロジェクトの根底にある「ちば愛を育む」ことは、県民の皆様が千葉の素晴らしさを良く知り、または、改めて見つめ直す契機へと結びつき、これが商品やサービス等へのストーリーなどの付加価値の創造や更なる県外発信に繋がっていくものと考えています。

PTでは現在、県内の関係団体等へ一斉のアンケート調査を実施し、それを取りまとめた今後の方策・条例の骨子案を整理しているところです。今後、随時途中経過を御報告してまいります。

※ネット検索 関まさゆき 千葉 でヒット。 ホームページ: http://www.seki-masayuki.com

発行元: 関 政幸 政務調査事務所 住所: 千葉市緑区あすみが丘3-51-10 TEL: 295-1011 FAX: 291-5526

千葉県議会議員 関 政幸: 1979年生まれ、土気南中学校卒、千葉東高校卒、早稲田大学商学部卒、弁護士、自民党会派所属。総務防災常任委員会委員長

★★ 県政や地方議員の役割・活動に対する皆様のご意見やご要望をお聞かせ下さい!! ★★

関 政 幸 第21号

2018年 8月発行

ひとりひとりの夢と個性が輝く千葉へ



前号は、本会議での質問を中心に御報告しましたので、今回は、県や議会の広報誌では、記載されることが少ない議員連盟、会派プロジェクト、及び有志勉強会などの活動にも焦点を当ててみました。

これらの活動は、個々の議員の裁量に委ねられていますが、議会からの政策提言にも繋がっていくとても大切な活動です。一部の御紹介となりますが、見解を交えながら御報告をさせていただきます。

防災 ブロック併の緊急点検と早期対応へ

6月定例県議会中の6月18日に発生した大阪北部を震源とする地震では、通学中の児童が倒壊したブロック塀の下敷きになり亡くなるという痛ましい事故が発生しました。これを受け、県関係の施設におけるブロック塀等の緊急点検が実施されました。

〈緊急点検の結果〉※本レポート作成時点

Table with 3 columns: Category, Not meeting current standards, and Shaking, tilting, and cracking.



5月に地震津波対策議員連盟で岩手県内の被災地を視察しました。町長ら多数の職員が亡くなった大槌町では、当時の災害対策本部の設置場所に教訓が残っています。



関コメ

所属している総務防災常任委員会では、所管する県有施設での今後の詳細調査・改修・撤去などの対応について、特に、通学路などの子供たちが多く通る箇所や人通りが多い箇所については最優先で、補正予算を組むなどの早急の実施を求めました。

そして、閉会日には、緊急発議により「学校におけるブロック塀等の安全確保に要する費用の補助金制度早急な創設及び先行して対応した自治体への制度の遡及的な適用を求める意見書」を全会一致で可決し、国にも各自治体の迅速な実施を後押しする制度の構築を求めているところです。

〈西日本豪雨災害〉

甚大な被害を受けて、県では、支援物資仕分業務や罹災証明交付業務などの支援のために、7月9日付けで岡山県小田郡矢掛町に4名の職員を派遣するとともに(その後、3班体制(各班4名の計12名)で継続)、下流の家屋や公共施設に被害を与える可能性がある溜め池の緊急点検の実施の応援で、7月29日付けで農業土木職員2名を岡山県に派遣しています。

また、県と県議会では、岡山県、広島県、愛媛県へ御見舞金(合計500万円)を届けることとなっています。被害に遭われた皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り致します。

教育 子供の多様なニーズに応じていくために

①フリースクール等推進議員連盟の発足と活動

平成28年12月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が公布され、児童生徒の意思を尊重した支援への配慮が求められています。本県でも、フリースクール等関係者と県教育委員会の連携・協力体制の構築に向けた動きが始まり、その後押しを行っていくために、本年2月議会で、超党派の「千葉県フリースクール等推進議員連盟」が発足しました。

5月には、県弁護士会の会場を借りて、「多様な学びで育つ私たち～教育機会確保法ってなんだろう～」をテーマに、千葉県フリースクール等ネットワークと共催イベントを行い、当日は、文科省課長による法の講演に加え、フリースクールに通う子供たちによるお話し、参加者を交えた活発な意見交換が行われました。



7月には、公設民営型のフリースクールである「フリースペースえん」(川崎市)と民設民営型の「東京シューレ王子」(東京都北区)を視察しました。子供たちの様子から、どちらも、安心できる空間と、子供の意思を大切にしていることが伺えます。



フリースペースえんが所在する「子ども夢パーク」では、やりたい気持ちを大切にしている子供たちが自ら遊具を作っています。

②教育研究会の「プロジェクト」視察

会派の教育研究会では、7月に、琉球大学教育学部の研究室が開発を進めている「プロジェクト」と、それを導入している中学校のケース会議を視察しました。

「プロジェクト」では、レコードという客観的な指標を用いることで、目の前の子供のニーズや特性を的確に

把握し、個々に相応しい教育の提供を行っていきます。

とりわけ特徴的なのは、分析と解決手法が一体的になっている点です。先生方が、現場での経験や感覚などで模索しながら行っている部分を、支援する客観的なツールであります。

例えば、レコードの分析により注意欠陥多動性障害の傾向が見られる子のケースでは、授業の進行を妨げる唐突なおしゃべりや割り込みにどのように対応するべきかという課題に対し、その子の席の場所、隣に座るのが好ましい子の特徴、注意の仕方などの具体的な助言が行われます。

今後の事例蓄積とICT等の技術で、よりスピーディで高い精度の分析・助言ができるようになります。



ケース会議では活発な意見交換がみられた。客観的第三者的なアドバイスがもらえる安心感、肩の荷が楽になるなどの感想も。

関コメ

フリースクールは、様々な事情により学校に行くことができない子供たちにとって、大切な「居場所」として、とても重要な役割を果たしています。

また、研究室の「プロジェクト」は、ひとり一人の子供のニーズに応えることができる指導の実現、円滑な学級運営やいじめ予防、更に、結果的に先生方の働く環境の改善にも繋がることが期待されます。

どちらの関係者も、子供のことを何よりも一番に考えて出発し、この時代に合った子供の多様なニーズに応えようと試行錯誤の努力を重ねられています。しっかり応援していきたいと思えます。

交通① 京葉線とりんかい線の相互直通運転の早期実現を

現在、京葉線(JR)とりんかい線(東京臨海高速鉄道)は、線路は接続されていますが、通常の直通運転は実施されておりません。イベント等での臨時便の運行がされることはあります。

これまでの県等の動きに合わせた昨年9月の国への要望活動などに加え、6月定例県議会では、超党派で推進するための活動・研究を行う議員連盟が発足しました。



自民党会派の鉄道問題対策議員連盟では、毎年、JR千葉支社への要望活動を行い、運行ダイヤの改善、ホームドアの設置、バリアフリー化、今回の京葉線とりんかい線の相互直通運転、さらには、県条例を踏まえた各駅へのAED設置の拡充など、県内各地域の声を届けています。昨年11月には千葉県JR複線化等期成促進同盟と共同で行いました。

○直通運転のメリット

- 渋谷・新宿・池袋などの山手線西側駅への乗換えが不要となり、埼玉や神奈川方面へのアクセスが良くなり、通勤・通学客の利便性向上に繋がります。
- 東京湾岸地域の産業・観光の一体的発展に寄与し、首都圏の国際競争力強化に繋がります。

○2つの大きな課題

- 京葉線とりんかい線では、運賃体系が異なり、乗車経路の把握と運賃収受に問題がある。
- 京葉線の朝のラッシュ時は1時間に24本の列車を運行しているため、増便には複々線化(線路を更に上下線で2本増やす)などを行っていく必要がある。

関コメ

東京オリンピック・パラリンピック期間中の臨時便の運行には大きな期待が寄せられています。

通常運行での実現にあたっては、複々線化(新木場～二俣新町の区間)を前提とすると、その事業費が約1,100億円(平成28年3月での県の試算)と想定されており、事業採算性に課題が出ます。

この点は、より大きな展望で乗り越えるべきと考えており、例えば、複々線化による、運行受入可能力の増大を最大限に活かすため、同じく新木場駅を終点とする有楽町線(東京メトロ)の乗り入れを併せて行う、総武線・京葉線接続新線の新設(新木場～市川塩浜付近～津田沼:交通政策審議会198号答申)を行うなど、より採算性と利便性の向上に繋がる広範な検討を議論するべきです。ここは、議連でも研究するように提言しました。

複々線化による相互直通運転の実現は、外房線や内房線の利便性向上へと派生しますので、大局的な視点で推進していかなければならないと考えております。

交通② 谷津船橋IC～計画道路塩田町誉田町線を結ぶ高速道路の整備を

国への要望を昨年9月に続き、本年6月27日、千葉市選出自民党会派県議団で国土交通省各担当課等へ提出しました。

○要望のポイント

- 京葉道路はほぼ全線で交通量が多く、千葉東JCT近辺、貝塚・穴川間、武石・花輪間など慢性的に渋滞が発生している。付加車線設置対策も根本的解決までには至っていない。
- 湾岸地域では大型物流施設、商業施設が立地されるなど、今後も交通需要の増大が見込まれ、成田空港と都心を結ぶ円滑な交通網の確保が必要である。
- 第二湾岸道路の予定地として、県で確保されている用地を活用することが可能である。

